

○平成25年度決算に基づく笠間市の財務書類の分析

笠間市の財政状況の特徴や課題を多面的に把握することで、今後の健全な行財政運営に役立てるため、各財務書類の数値を活用し、「健全性」・「効率性」・「公平性」・「資産適合性」について、1年間で分析結果がどのように変わったかを比較します。

(1) 健全性

(普通会計)

名称	算式	H24年度	H25年度	比較増減
①実質純資産比率	$(\text{純資産合計} - \text{インフラ資産}) / (\text{資産合計} - \text{インフラ資産})$	18.0%	20.1%	+ 2.1%
②債務償還可能年数	$\text{地方債(短期を含む)} / (\text{当期純資産変動額} + \text{減価償却費} + \text{直接資本減耗})$	9.52年	8.04年	▲ 1.48年
③市民一人当り地方債	$\text{地方債(短期を含む)} / \text{市民人口}$	366千円	374千円	+ 8千円
分析	地方債は増加したものの返済能力は確保されており、本市の財務状況は概ね健全性は保たれていると考えられます。			

※市民人口：78,710人（住民基本台帳より、平成26年3月31日時点）（以下同様）

(2) 効率性

(普通会計)

名称	算式	H24年度	H25年度	比較増減
①市民一人当り総行政コスト	$(\text{経常費用} + \text{直接資本減耗}) / \text{市民人口}$	319千円	317千円	▲ 2千円
②市民一人当り税収	$\text{税収} / \text{市民人口}$	131千円	134千円	+ 3千円
③市民一人当り補助金収入	$\text{補助金等移転収入} / \text{市民人口}$	166千円	170千円	+ 4千円
分析	行政コストの減と税収、補助金等の確保により、効率性は保たれていると考えられます。			

(3) 公平性

(普通会計)

名称	算式	H24年度	H25年度	比較増減
①純資産比率	$\text{純資産合計} / \text{資産合計}$	68.2%	68.3%	+ 0.1%
②受益者負担比率	$\text{経常業務収益収入} / \text{経常費用}$	5.6%	5.9%	+ 0.3%
③市民一人当り社会保障関係支出	$\text{社会保障関連費等移転支出} / \text{市民人口}$	55千円	56千円	+ 1千円
分析	資産に関しては、活用可能な資産を現役世代の負担により形成していること、サービスに関しては、市民の負担に対して所得再分配が図れていることから、公平性は確保されていると考えられます。			

(4) 資産適合性

名称	算式	H24年度	H25年度	比較増減
①資産老朽化率 (単体会計)	$\text{減価償却累計額} / \text{取得価額}$	43.0%	44.6%	+ 1.6%
②資産更新準備率 (普通会計)	$(\text{資金} + \text{基金} + \text{積立金}) / \text{減価償却累計額}$	18.4%	19.0%	+ 0.6%
分析	資産老朽化は進んだものの、基金や積立金等の準備も増えたことから、資産適合性は図られていますが、施設の統廃合や更新には留意が必要です。			

(5) 分析の総括

平成25年度の財務書類の数値の分析をまとめると、財政健全化指標などの決算指標を勘案しても、良好な状態であると考えられます。